

アカデミックフェス 事後レポート

企画名：明治大学自動運転社会総合研究所と地域社会の持続的発展

企画名（英語）：Meiji University Research Institute of Autonomous Driving and its Social Acceptance (MIAD) and sustainable development in local community

時間：13:00~15:00

会場：アカデミーコモン 3F メインステージ

登壇者：中山幸二（明治大学自動運転社会総合研究所所長（法律部門代表）、専門職大学院法務研究科教授）、萩原一郎（同所員（技術部門代表）、研究知財戦略機構特任教授）、中林真理子（同所員（保険部門代表）商学部教授）、川井真（同所員（地方創生部門代表）、研究知財戦略機構 客員研究員）比田勝尚喜（長崎県対馬市長）、志太勤一（（株）シダックス会長兼社長）、桑原直行（対馬市医療統括官、市立いづはら診療所 所長）、長安六（対馬藩お船江所有者、アグリパーク・プロジェクト主催者、佐賀大学名誉教授）、大学生（明治大学、立教大学、成蹊大学）、長崎県立豊玉高校の生徒

開催概要：

第一部では「技術」・「法律」・「保険」・「地方創生」の各部門からなる明治大学自動運転社会総合研究所の活動について、部門代表が紹介した。第二部では「ソリューションとしての自動運転」として、「地方創生」部門が長崎県対馬市で実践中の産官学民による新たな地方創生の取り組みである「対馬プロジェクト」と自動運転社会のかかわりについて紹介した。

開催概要（英語）：

In the first part, division leaders introduced the activities of the Meiji University Research Institute of Autonomous Driving and its Social Acceptance (MIAD), consisting of each division of "technology", "law", "insurance", and "regional revitalization".

In the second part, the regional revitalization division's research project "Tsushima Project" was introduced. The project is a regional revitalization activity by industry, government, academics and citizens who are practicing in the area of Tsushima City, Nagasaki prefecture. This is an example that autonomous driving is accepted as efforts to revitalize and revitalize areas in depopulated and rural areas.

開催内容：

・第一部：明治大学自動運転社会総合研究所の活動紹介

所長と各部門代表が、研究所の設立経緯から現在までの活動報告を行った。「地方創生に寄与する自動運転」を社会実装化させるため、多岐にわたる課題を有機的に融合させた研究拠点を 2018 年 4 月に立ち上げた。「技術」・「法律」・「保険」・「地方創生」の 4 部門から始まり、現在では「医療 AI」・「社会実装」と新たな連携を挙げ、またその対象領域も自動車から、船舶さらには宇宙開発まで視野に入れた活動を展開していることを紹介した。

そして過疎・農山漁村地域での地域再生・活性化の取組みに自動車・船舶等の自動運転を組み入れるべく実証実験に着手し始めたところであり、第二部では、ソリューションとしての自動運転を地域社会で役立てるべく、「地方創生部門」が長崎県対馬市で、自治体、地域住民、企業、学生を巻き込んで推進中の産官学民による「対馬プロジェクト」を紹介した。

・第二部：域学連携アプローチ「対馬プロジェクト」の紹介

最初に、進行役の川井研究員より、「僻地・離島における自動運転社会への期待」と題して対馬プロジェクトの意義を概説した。続いて比田勝対馬市長が、「対馬市の課題と自動運転社会への期待」として、国境離島である対馬市の紹介と自動運転がもたらす効果について紹介した。続いて、志太シダックスグループ会長より、「企業の挑戦：地方創生に産官学民で取り組む」と題して、同グループの活動と「産」の立場からのプロジェクトへの関与について紹介した。その後、現地で活動を推進する立場から「地域の挑戦：アグリパークと地域包括ケア～ネコバスへの期待」として、桑原氏は「地域ごちゃまぜケア」の紹介、長氏は豊富な資料を基にした活動報告を行った。

引き続き、学生報告「学生の挑戦：海洋汚染問題と自動運転船舶によるソリューション」を行い、対馬で深刻化する海洋漂流ゴミ回収のための自動運転船舶の導入、さらに啓蒙活動として、日韓の学生が行っている環境フォーラムをアジア、さらに全世界に拡げる提案を行った。

最後に全登壇者によるパネルディスカッション（地方創生シンポジウム「自動運転に期待すること」）を行い、対馬市からはインターネット中継で豊玉高校の生徒が参加し、未来を担う世代と自動運転社会への期待を大いに語り合い、盛会のうちに幕を閉じた。

本企画に合わせてアカデミーコモン 1 階では「対馬市物産展」が開催され、技術部門による「自動運転シミュレーター体験コーナー」も設置された。

以 上